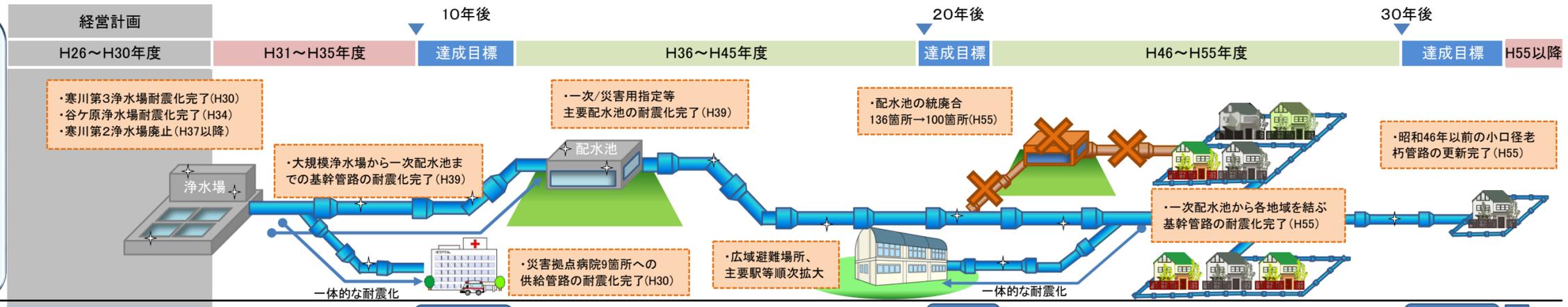


神奈川県営水道施設整備のロードマップ

これまでの取組状況

○老朽施設の更新
「施設の見える化」において、今後30年間に必要な更新コストが約6,300億円(年約210億円)と試算され、現状の規模(年約130億円)をはるかに超えることから、施設の再構築と計画的な更新に取り組む。

○水道施設の耐震対策
切迫性の高い東海地震(レベル1地震動)に備えた補強はほぼ完了しているが、今後は、平成20年の水道施設基準の改正に対応するため、県内で最大規模と想定される南関東地震(レベル2地震動)に備えた補強を推進する。



項目	経営計画			10年後		20年後		30年後	
	H26~H30年度	H31~H35年度	達成目標	H36~H45年度	達成目標	H46~H55年度	達成目標	H55以降	
★安定した水の供給体制の確保	小規模水源	15箇所	12箇所	9箇所	5箇所	5箇所	5箇所	5箇所	
	寒川浄水場	第2浄水場 第3浄水場	第2浄水場 第3浄水場	第2浄水場の縮小(第2浄水場廃止)	第2浄水場の縮小(第2浄水場廃止)	第2浄水場の縮小(第2浄水場廃止)	第2浄水場の縮小(第2浄水場廃止)	第2浄水場の縮小(第2浄水場廃止)	
	谷ヶ原浄水場	小規模配水池の削減	小規模配水池の削減	小規模配水池の削減	小規模配水池の削減	小規模配水池の削減	小規模配水池の削減	小規模配水池の削減	
	配水池	136箇所	113箇所	108箇所	104箇所	104箇所	100箇所程度	100箇所程度	
	老朽管更新	残存延長 1,315km ※基幹管路含む	残存延長 1,079km(H30末)	残存延長 923km(H35末)	残存延長 473km(H45末)	残存延長 473km(H45末)	残存延長 473km(H45末)	残存延長 0km	
◇災害や事故に備えた強靱な水道づくり	浄水場	レベル2耐震化(谷ヶ原浄水場) レベル2耐震化(寒川第3浄水場)	寒川第3浄水場完了(H30) 谷ヶ原浄水場完了(H34)	レベル2耐震化(長野、イタリー、品ノ木、水士野)	レベル2耐震化(長野、イタリー、品ノ木、水士野)	レベル2耐震化(長野、イタリー、品ノ木、水士野)	レベル2耐震化(長野、イタリー、品ノ木、水士野)	レベル2耐震化(長野、イタリー、品ノ木、水士野)	
	配水池	一次、災害用指定配水池を優先して着手 8箇所の耐震化	10箇所の耐震化 耐震化率(*1): 18% → 36% → 72%	10箇所の耐震化 耐震化率: 36% → 72%	17箇所の耐震化 耐震化率: 72% → 93% → 93%	17箇所の耐震化 耐震化率: 72% → 93% → 93%	55箇所の耐震化 耐震化率: 72% → 77% → 100%	55箇所の耐震化 耐震化率: 72% → 77% → 100%	
	基幹管路	災害拠点病院につながる管路から着手	66% → 69% → 72%	66% → 69% → 72%	66% → 69% → 72%	66% → 69% → 72%	66% → 69% → 72%	66% → 69% → 72%	
	重要給水施設への供給	広域避難場所/災害拠点病院/緊急輸送路/主要駅	災害拠点病院9箇所 拠点病院9箇所完了(H30)	災害拠点病院9箇所 拠点病院9箇所完了(H30)	災害拠点病院9箇所 拠点病院9箇所完了(H30)	災害拠点病院9箇所 拠点病院9箇所完了(H30)	災害拠点病院9箇所 拠点病院9箇所完了(H30)	災害拠点病院9箇所 拠点病院9箇所完了(H30)	
○より安全で良質な水づくり	◆残留塩素濃度の低減化と平準化			◆学校直結給水の実施		◆鉛製給水管の解消		◆鉛製給水管の解消	
	◆残留塩素濃度の低減化と平準化			◆学校直結給水の実施		◆鉛製給水管の解消		◆鉛製給水管の解消	

*1 統廃合により廃止する配水池36箇所の容量を除いた耐震化率
*2 「基幹管路の耐震適合率」とは、地盤条件と合わせて耐震性が認められる管路の率
*3 国県道内の一部を除く

(注) このロードマップは、企業庁経営方針(H26~35)のもと、2014(H26)年3月に作成したものです。